

いしづち

2025.11

NOVEMBER

No.167



公益社団法人 愛媛県建築士会

Ehime Society of Architects & Building Engineers

<http://www.ehime-shikai.com>



空の蜘蛛の巣
建築パース製作実践編③ 鉛筆によるスケッチパース
道後の湯釜 神の湯の湯釜編② 十霊の湯 女子湯釜編

1	空の蜘蛛の巣	道上壯／V u A……①
2	建築パース製作実践編3) 鉛筆によるスケッチパース	松山支部 尾崎 光高……③
3	道後の湯釜	神の湯の湯釜編②+霊の湯女子湯釜編 一級建築士 野本 健……⑤ 文化財・まちづくり委員会 委員 花岡 直樹……⑤
4	委員会報告	第67回建築士会全国大会「おおさか大会」報告 総務・企画委員会 委員長 井上 竜治……⑨ 井原工業㈱ 松山支店 高橋 拓哉……⑨ 登録有形文化財 愛媛県教育会館について 文化財・まちづくり委員会 委員 和田 崇……⑪ 教育・事業委員会主催「B I Mで何が出来る?勉強会」に参加して 教育・事業委員会 副委員長 相原 昌彦……⑫ 令和7年一級建築士試験「設計製図の試験」対策『庁舎』実例見学会報告 青年委員会 委員長 武智 良太……⑬ 第34回全国女性建築士連絡協議会(やまがた)「山形から発信 みらいへつなぐ木への挑戦」～雪・山・川が織りなす食文化とともに～ 女性委員会 委員長 永井 由起……⑭ 西予支部 下元 美恵……⑮ 松山支部 八束智恵美……⑮ オンラインに参加して 松山支部 一之瀬佳緒理……⑯ 宇和島支部 田中 陽子……⑯
5	支部報告	住宅なんでも相談会及び空き家・空き地問題無料相談会 四国中央支部 支部長 岸 良一……⑰ 土壁のおはなし会&野菜蔵づくりワークショップ 今治支部青年委員会 委員長 今井このみ……⑱ 模型家づくり体験教室 松山支部青年女性委員会 委員長 辻川晃太郎……⑲ 臥龍山荘を建築士と伴に見直そう 大洲支部 支部長 仲尾 和彦……⑳ 無料建築相談「建築士の日」街頭アピール団扇配り、建築クイズ、 熊本・能登被災地写真展 八幡浜支部 安藤 嘉晃……㉑
6	お知らせ	令和7年度 第2回理事会概要報告 事務局……㉒

※尚、表紙及び本誌記事の無断転載を禁じます。

透明水彩

あたまざきとうだい

題:「頭埼灯台」 紙サイズ/F4

興居島の「頭埼灯台」は、明治初期に建設された愛媛県初の西洋式灯台の一つ。興居島を含む愛媛県初の西洋式灯台は、英国の技師であるリチャード・プラントンによって設計されました。具体的な建設年は不明ですが、1873年(明治6年)には釣島灯台が初点灯しており、興居島にも同様の時代に西洋灯台が建設されたと推測されます。



表紙作者 上田 勇一 プロフィール

1974 東京生まれ
1980 小学校から高校まで松山在住
1990 東日本建築教育研究会製図コンクールにて奨励賞
1991 愛媛県内高校生建築競技設計にて会長賞
(愛媛県建築士事務所協会主催)
1993 画家・高橋勉氏に師事。約10年間、古典絵画技法全般を学ぶ
1996 日本工業大学建築学科 卒業
1998 画家として活動開始する。東京や埼玉にて毎年個展開催
2002 日本ファンタジーノベル賞受賞作者「世界の果の庭」
(新潮社)の装丁担当
2003 美術家の登竜門である昭和会にて優秀賞(東京/日動画廊)
2010 愛媛県美術館に作品「ドライフラワー」収蔵される
2015~17 愛媛新聞 冊子アクリート表紙画連載
絵画教室やオリジナルブランド額工房「糊リチエルカ」を設立
2017 「えひめの塗り絵」を出版
その他、出版装丁画や受賞多数、全国にて個展中心に活動。
現在、現代日本美術会 会員/審査員

空の蜘蛛の巣

道上壯／VUA

「僕たちの日常は、錯覚の無限の連鎖の中にある」。昔読んだ何かの小説の一節だ。何かがちっと気にならながらも、日々の生活の中で忘れ去られ、気にならなくなってしまう—ことだったような気がする。

僕が京都の設計事務所に勤めていた時、ふと気づかされたことがあった。竣工写真の撮影で、建築写真家の人と一緒にいた時のことだ。「道上くん、あの電柱と電線邪魔だよ、取ってきてくれる？」もちろん、若い担当者の僕へのちょっとした冗談だったのだが、僕はそれ以来、電柱と電線が気になるようになってしまった。



外に出るとあちこちに電柱が立ち、縦横無尽に電線が張り巡らされている。子供の頃、そんなことを気にしたことはなかった。お正月の凧揚げで、電線に凧が引っかかって、電線が邪魔だと思ったことはあったが、景観的に美観的に気になったことはなかった。大学生になり、建築を学び始めた頃も、敷地の角に立つ電柱を気にしたり、建築の前を横切る電線を邪魔だと思ふことはなかった。電柱も電線も当たり前のもので、僕はそれらを街の中のいつもの風景としか捉えていなかった。

どこかで、いつだったか、それに気がつくチャンスはあったように思う。しかし、僕の育ちの悪さか、感受性の鈍さか、学習能力の低さか、何かをモヤモヤと感じつつも、きっと呆気なく通り過ぎてしまっ

たのだ。そして、建築そのものへの意識は高まりながらも、その周辺環境や風景には無頓着のまま、26才頃まで過ごしてしまったのだ。



SI. Houseの敷地を見に行ったら時、まるで何かの邪魔をするかのように、敷地の角に電柱が立っていた。それも、角地のコーナー側で、敷地を一番よく見渡せる位置にだ。プレゼン後、正式な依頼を受けてプロジェクトが決まり、現場の工事が始まる前に、施工会社の人と一緒に電力会社に移設の依頼に行ってみた。予想通り丁重に断られ、そのまま工事が進むことになった。個人の住宅で電柱の移設に応じていたら、町中の無数の電柱の移設に応えなければならなくなるので、望みはないことは分かっていた。

建築の竣工写真は、何とかなる。昔のポジフィルム撮影の時代であれば、ポジフィルムを職人技で修正すれば、電柱や電線を消すこともできた。現在のデジタル撮影の時代であれば、素人でも画像編集ソフトやAIを使えば、簡単に自分の思い描いた通りの竣工写真に仕上げることができる。雑誌や記録の中の建築は、いつも自分の理想通りの佇まいで、保存することが可能なのだ。

僕たちの美意識はどこにあるのだろうか？図面上？竣工写真の中？それとも、建築を取り巻く周辺環境を含めた現実の世界？建築は、現実世界の中で輝いてこそ、建築たりうると僕は思っている。美しい

アリバイを繕っても、真実の姿は変わることがない。周辺環境が素敵で、目の前の建築が美しくあることを僕たちは真摯に目指すべきなのだ。



建築と無縁な普通の人たちは、電柱や電線をどう考えているのだろうか？きっと昔の僕と同じで、何の違和感もなく、普通に当たり前の光景として捉えているに違いない。そして、ヨーロッパなどの街並みを見て、美しいと感じる一因に「無電柱化」の背景があることに、ふと気がついたりするのではないだろうか。

日本人の美意識の中に、美しい現代都市を！僕はそう密かに願っている。建物は変わらなくても、電柱と電線が無くなるだけでも、街は都市は随分と美しくなるものだ。ありふれた普通の建物ばかりでも、何かすっきりと清楚な感じがする。みなさんたちも、是非身近な無電柱化空間をもう一度体感して、その美しさに対する感覚を呼び覚まして欲しい。

電柱と電線無くすには、とても費用がかかる。美意識だけでは現実には解決できない。電気代が上がっても、街の通りの美しさを優先させるだけの美意識とプライドが、僕たちには必要だ。ヨーロッパの人々にそれができて、日本人にそれができないとは思えない。創意工夫、新しい技術や知恵を出し合って、日本ならではの電柱と電線のない街並みを取り戻してもらいたい。てんでばらばらの建築群と乱立する電柱と蜘蛛の巣の如き電線を、アジア的、日本的と楽し

む考え方も分からないではないが、やはり僕は、日本の街並みはもっと清楚であって欲しいと思っている。



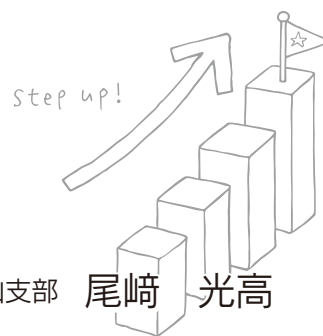
バイク・自動車メーカーのホンダに、こんなスローガンがある。「子供たちに青空を」—ホンダの環境への取り組みを表明したものだ。その昔、世界的に排ガスによる光化学スモッグが社会問題になり、世界で最も厳しい排ガス規制マスキー法を、世界で初めてクリアしたホンダの原動力になった言葉だ。

僕は、この言葉を借りて、建築の世界でも、いや日本社会全体で「子供たちに青空を」を考えて行く必要があると思っている。僕たちの美意識は、立ち枯れた木立とそこに張り巡らされた蜘蛛の巣によって、本当の美しさが見えない状況に陥っている。蜘蛛の巣の向こうに広がった、青空に満ちた街並みを、僕たちは次の世代に伝えなければならない。

蜘蛛の巣は、一見目に見えない。だから昆虫たちは不用意にもその網に捕えられてしまうのだ。そして、その網の糸は粘性があり、一度捕えられてしまえばなかなか抜け出せない。僕たちの目に張りついた、心に張りついた、美意識に張りついた蜘蛛の巣もそうに違いない。しかしながら僕たちには、美しさに対する憧れがあり、青空に対する英知がある。海外から過去最高に旅行客が訪れている今、世界の人々の感覚に目を向け耳を澄まし、世界標準の蜘蛛の巣のない青空を取り戻す心を、僕たち日本人は今一度、心に刻む必要があると思っている。

建築パース制作実践編 3)

鉛筆によるスケッチパース



今回より、様々な画材を使った制作技法の紹介をさせていただきます。まずは鉛筆・シャープペンシルによる技法ですが、モノクロだけでもアピール度の高い表現が出来る事を理解して頂き実務に活かして頂ければ幸いです。又、彩色が苦手な方にもお勧めです。

1 鉛筆による表現技法

- ①鉛筆の線の太さ、濃淡、直線と波線等、力加減によって色々な線が描けます。柔らかいもの(4B~9B)程出しやすいです。又、波線は柔らかい印象になり、素人に馴染みやすい仕上がりとなります。ラフプラン(フリーハンド)等の製作にも取り入れられると良い結果が得られます。
- ②影等を付ける時に鉛筆を寝かせるよう(鉛筆芯の側面)にして描く表現法です。
- ③②の状態にてティッシュでこするとより滑らかな曲面等の表現が出来ます。
- ④鉛筆芯の形によっても線の種類を増やせます。何本か使い分けするのも良いでしょう。絵画でも使われる技法ですが、大まかにこれ位覚えるだけで十分です。



2 制作準備

次に、具体例により理解度を上げて頂く為、あかがねミュージアムの外観写真を使って制作順序を解説してまいります、紙面の関係上枚数は絞りました。

〔準備〕

現地撮影した写真をカラーコピーする、それをトレペにてトレースしたものをコピー用紙に印刷して準備完了。



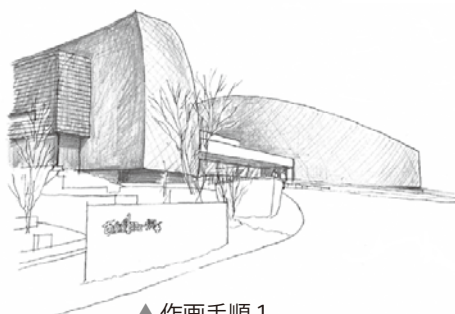
▲あかがねミュージアム外観

作画手順 1

- ①写真を見ながら外壁(銅板張部)から曲面の影の濃淡を忠実に表現する。
- ②石壁部の影を付ける。
- ③玄関ポーチ屋根部分の影を付ける。
- ④ガラス部分は写真には有りませんが光反射の斜め線を入れ、室内は写真を見てそれらしく再現する。
- ⑤銅板張部の形状ラインを余り細くならないように入れる。
- ⑥石壁部の石目を省略しながらもそれらしく描く。



▲コピー下図



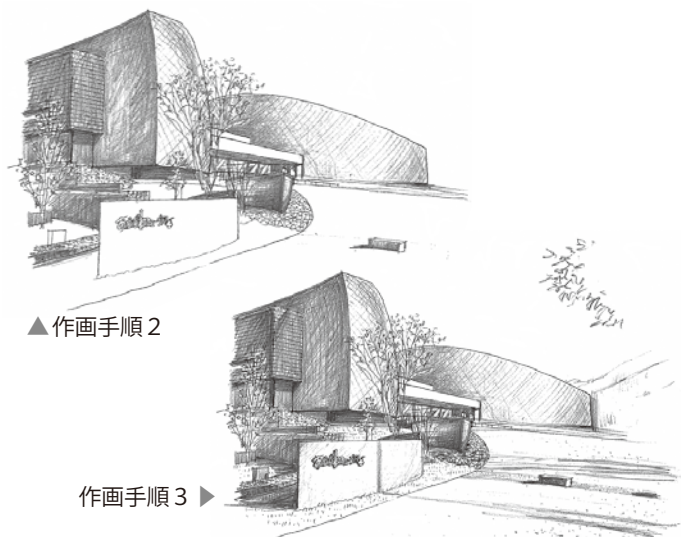
▲作画手順 1

作画手順2

- ⑦舟の陰影を入れる、曲面らしくなるよう意識する。
- ⑧石積と石を敷き詰めた所は凸凹感の違いを明確に描き分ける。
- ⑨樹木の葉をそれらしく入れる。

作画手順3

- ⑩芝生は所々に生えているように描きすぎないようにそれらしく表現する。
 - ⑪路面は点描法で描くとゴツゴツした雰囲気が出ます。
 - ⑫路面の影も入れてみる。
 - ⑬ロゴ部分の影も入れて浮きあがらせる（そのような仕様になっています）。
 - ⑭背景の山並みを入れる。
 - ⑮画面右上に枝葉を入れ、見る人の視線を止めて建物に向くようにする（主役の建物を際立たせる工夫です）。
- *スケッチパースの場合は、細かく描かないのが基本で



すが、それぞれの形は余り省略せずに描くのが絵画との違いです。形、素材感、重厚感、建物の品性等意識して出すように心掛けてください。又、人物は建物のスケール感を出す為に重要です。樹木も建築に欠かせないものですね。

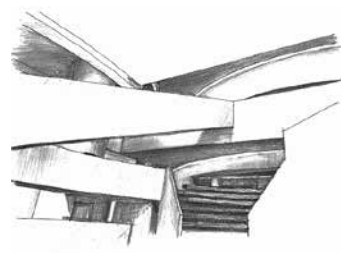
3 内部 あかがねミュージアム内観

今回、内部も描きましたので参考にしてください。インテリアコーディネーターの方もスケッチパースを練習してみてください。最大の見せ場である玄関ホール of 吹抜空間を写真に忠実に描いてみました。この様な曲面が多い場合は表現技法⑨を使うと滑らかな表現が出来ます。後は写真に忠実に陰影を付けていくと、立体感を出すテクニックも会得出来ます。照明器具の種類、配置等も参考になります。

【プチ考察】あかがねミュージアムは3つのコア（エリア）からなり、中央にこの吹抜空間があります。この部分には上部は屋根しかない為、荷重を掛けられないような構造かと考えられます。ここはRC造でないと成り立たないようです。中空階段、その他の手摺壁部を逆梁とし床スラブと一体化させて持たせているかと思



▲内観写真



▲完成スケッチパース

います（図面を見ていないので推察ですが）。それにしても、発想力、設計力（構造計算力）、施工技術（職人の熟練の技）が集約している建築物ですね。このような建物を思い付いても構造、工法をどうするかクリア出来ないと実現出来ません。そこで思うのが優れたアイデアを実現させる為には、木造、S造、RC造等の構造の知識がある程度ないと駄目かと考えます。そして、パースを描く上でも欠かせません。

4 参考例 東京の某ビル

東京出張の折、銀座に建っていた店舗のファサードが気に入ったので撮影しました。外国のブランド店のようで、モダンな中にもタイル、アーチでヨーロッパ的な雰囲気も醸し出されているオシャレなデザインでした。結構奇抜な造りで凹凸（影の付け方）で立体感もあります。全体の色合いは、ソフトな女性向けの上品な色の組み合わせとなっています。ロゴと下の窓幅を揃えています。このパースには、添景（人、車、樹木、花壇）があります。人の数、車（車種）の台数、木の種類、配置等のバランスを考える上で、実例写真によって学ぶ事が数多くあります。

*モノクロですが、色彩感もある程度表現出来ますので感性を磨いていくと彩色時に役立ちます。

*先ずはこのような実例写真のトレースによるスケッチ



▲外観写真



▲完成スケッチパース

パースの練習をお勧めします。慣れると1時間程で描けるようになります。色んなメリットがありますので頑張ってください。次回は色鉛筆による製作法をご紹介致します。今回は古建築シリーズはお休みです。尚、建築士会HPより、カラー版が閲覧出来ますので宜しくお願い致します。

道後の湯釜 神の湯の湯釜編②+霊の湯女子湯釜編

執筆：一級建築士 野本 健
監修：文化財・まちづくり委員会 委員 花岡 直樹



神の湯西側浴室の湯釜

正面に大国主命が宝珠を抱く像を彫ったこの湯釜（直径143cm、高さ280cm）は、昭和10年（1935）の神の湯浴室改築工事の時に「神の湯：女湯」の湯釜として設置され、昭和29年（1954）の養生湯の浴室改築

時に「神の湯：男湯」として使用されるようになった。保存修理工事後は、70年振りに「神の湯：女湯」として再び使用されるようになったのである。



【宝珠】

しんやすければきまたいらかなり

神安氣亦平

【訳文】

精神が安らかであれば気持ちも静かで平らかである。

【湯釜胴部訳文】

（長歌）

遠い昔の神々の時代のままの出で湯には、口に出して
言うのもまことにおそれ多い御霊が、幸せを^{みたま}与えてくれるだろうよ

出雲 尊統誌

道後の湯釜 神の湯の湯釜編②+霊の湯女子湯釜編



▲ 神の湯西側浴室（提供：二神 将）



▲ 湯神社の揮毫（千家尊統）
たかむね



▲ 伊佐爾波神社の揮毫（千家尊統）

【考察1：神の湯西側浴室について】

この湯釜は昭和10年(1935)に明治27年(1894)建設の一ノ湯、二ノ湯、三ノ湯の3つの木造の浴室としていたものを2つの浴槽としてコンクリート造に改築した際に製作したものである。

昭和9年(1934)7月より工事を開始して昭和10年(1935)2月に開業している。当時の新聞によれば、昭和9年(1934)の9月末完成予定であったが、工期延期を繰り返し、結果的に2月になった次第である。

道後温泉の最初の入浴は町民の中で一番の高齢者と決まっており、男性は宮内辰五郎(86歳)、女性は仙波ツル(106歳)であった。

9月末完成予定が2月になったことで、常に陳謝の記事内容となっている。そのため、神の湯西側浴室の情報が一切なく、石材やデザイン、文字の揮毫の意味などが一切不明な状況である。

【考察2：千家尊統について】

湯釜の揮毫文は出雲大社3代目の総裁である千家尊統に依頼している。昭和の時代においても明治時代から続く出雲大社との縁を大切にしていることが読み取れる。

湯神社と伊佐爾波神社の石段を上る最初の方に名称が記載された石碑が鎮座しており、どちらも千家尊統が揮毫をしている。湯神社と伊佐爾波神社が道後温泉との関連を示していることが伺える。

道後の湯釜 神の湯の湯釜編②+霊の湯女子湯釜編



▲ 霊の湯女子浴室



▲ 湯釜側面



▲ 湯釜湯口付近



▲ 彫像脚部

【霊の湯女子浴室】

昭和29年（1954）に「神の湯：女湯」の湯釜として設置された。湯釜（長径75cm、短径45cm、高さ230cm）は、楕円形で湯口を四方に持っており、設置当時は千人風呂方式と呼ばれ、上部には東向きに大国主命、西向きに少彦名命の像が設けられている。

湯釜のデザインは日本画家の長谷川竹友が行い、彫刻は香川県屋島の藤村嘉六が行った。設置当時は壁面に洋画家の古茂田公雄がデザインした白鷺を表現したモザイクタイルが張られていた。

湯釜の北側の浴槽の底には「神の湯：男子浴室（東側）」と同様の源泉を表す刻印を刻んだ。

【湯釜胴部訳文】

昔から絶えることなく温泉が流れ出ている。さらに湧き出てくるお湯の、霊験をありがたく思うことだよ。
(神様が)人々が若死にすることを憐れんで、はじめて湯泉の術をおつくりになった。

出雲 尊福

【湯口付近】

高松市屋島西町
屋島石材一四九一
藤村嘉六謹刻

【大国主命の脚部】

高アジ◎刻

【考察1：霊の湯女子浴室】

この霊の湯女子浴室がある場所は、最初に養生湯という無料の浴場があり、簡易的な屋根があるだけの簡素な建物であった。

明治25年（1892）に伊佐庭如矢が料金を徴収するための公衆浴場へと改築工事を行った。

その後、大正13年（1924）に道後湯之町の建築技師であった平源右衛門が南棟として建て替え、昭和29年（1954）に神の湯女子浴室として鉄筋コンクリート造の浴室へと改築工事を行った。

保存修理工事の前期工事終了後は浴室の最高位である霊の湯女子浴室へと利用形態を変えた。

最初の無料の浴場から最高位への浴場へと変わったのは歴史的観点から見ても非常に興味深い浴室である。

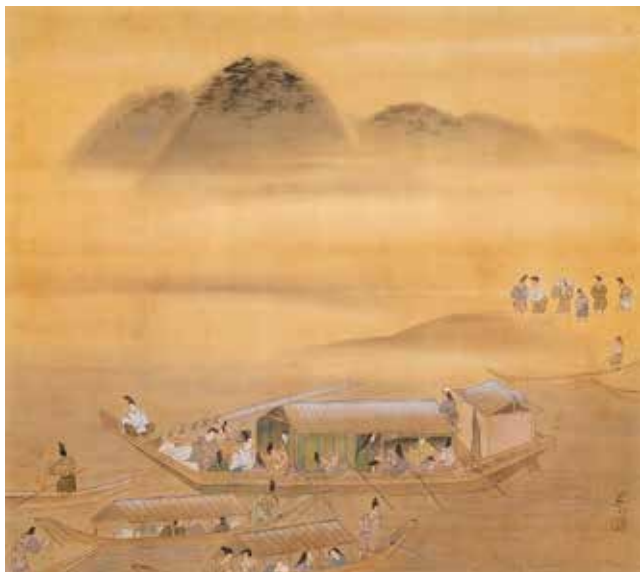
昭和29年（1954）7月1日から工事を始め、10月1日に開業式を行っている。昭和10年（1935）の神の湯浴室の工事の反省からか、工期通りに工事を行っている。

現在の霊の湯女子浴室の湯釜は昭和29年（1954）に設置された湯釜であり、揮毫文はその前身の養生湯の湯釜（現放生園の足湯の湯釜）と同様にしている。

大国主命と少彦名命のデザインは、昭和28年（1953）の椿の湯の完成記念に道後温泉の歴史に関する絵を寄贈した縁だろうか、長谷川竹友に依頼している。

この人物は神の湯二階席の道後温泉の歴史の日本画を描いた画家であり、保存修理工事前の道後温泉を訪れた人々の目に焼き付いていることであろう。保存修理工事後は中央廊下に飾られている。

道後の湯釜 神の湯の湯釜編②+霊の湯女子湯釜編



▲ 熱田津と港 (長谷川竹友)



▲ 瀬戸内風景 (古茂田公雄)

【考察2：長谷川竹友について】

明治18年(1885)～昭和37(1962)。愛媛県下浮穴郡拝志村下林(現・東温市)の生まれ。大正9年(1920)に道後公園にあった衆楽館という建物で「長谷川竹友壮行記念画会」を開催した。

神の湯二階席の欄間に飾ってあった道後温泉の歴史に関わる絵を描いた人物である。

昭和28年(1953)に椿の湯の完成記念に絵を寄贈していることから、その縁で絵やデザインを行ったものと考えられる。

【考察3：古茂田公雄について】

明治43年(1910)～昭和61年(1986)。松山中学校卒業後、上京するも東京美術学校(現・東京藝術大学)の受験に失敗、その後、猪熊弦一郎に師事して、新制作派協会で活動した。戦後は松山へ戻り、県展洋画部審査員や美術研究所設立にたずさわるなど、愛媛の洋画壇をけん引した人物。道後祝谷の出身であったことから、郷土作家の中でもとりわけ道後温泉側と密接な交流があった人物と推測され、昭和28年(1953)には椿の湯浴室のタイル壁画の、翌29年には霊の湯女子浴室のタイル壁画のデザインを担当、面河溪や瀬戸内海などの風景を、卓越した描写力で描き、キャンバスの裏面に記された本人の直筆から、自ら本館へ寄贈したものと見られる。

■まとめ

道後温泉の湯釜に刻印された訳文や解釈の旅がようやく終わりを迎えた。人々が普段間近に目にする湯釜について長年調査・研究した人がほとんどいないことに驚いた。

今回は「道後温泉ものがたり」を縁にして繋がった方々の多大なるご尽力のおかげで、このようにまとめることができた。今一度、関係各位に謝辞を述べたい。

これにて道後温泉の歴史に関する執筆についてやっと筆を擱くことができる。

みなさま今まで本当にありがとうございました。

今までの内容は「道後温泉本館保存修理工事 総集編」「道後温泉湯釜ものがたり」でまとめています。

ご興味のある方は、是非お読みいただければ幸いです。

■参考文献

『道後温泉誌 略』伊佐庭如矢 1901年
『道後温泉と伊佐庭如矢』阿部里雪 1915年
『道後温泉 増補版』松山市 1982年

* 本書掲載の文章・図版の無断複製・転載を禁じます。

第67回建築士会全国大会 「おおさか大会」 報告

総務・企画委員会 委員長 井上 竜治

開催日：令和7年9月19日(金)

大会会場：グランキューブ大阪（大阪府大阪市）

参加者：78人（うち本会ツアー参加者18人）

今回のテーマは「建築からソーシャルデザインへ」。全国から3千人の会員が参加し、盛大に開催されました。

太田さんと糸野さんが表彰式に出席

愛媛県より、連合会長表彰を太田淳一さん（西条）、松山清さん（西予）、糸野康さん（宇和島）の3名が受賞され、太田さん、糸野さんがおおさか大会に参加され、式典にて表彰されました。

皆様、おめでとうございます。今後益々のご活躍を祈念致します。



▲ 太田淳一さん



▲ 糸野康さん



▲ 大会会場前で集合写真

近藤さんがパネリストとして

防災まちづくりセッションに参加

大会会場にて午前中に開催された防災まちづくりセッ

ションでは、近藤岳志さん（松山）がパネリストとして2012年から活動し続けている「建築士による防災講座」の報告をされました。



▲ 古谷連合会長あいさつ

本会ツアー報告

恒例のゴルフコースと観光コースに分かれ、それぞれ大阪を満喫しました。



▲ オータムキャンペーンで写真撮影OK

観光コースは、お昼前に難波に到着。14:30からの吉本開演までみんなで昼食。大阪名物の串揚げ屋へ。串揚げを食べ、ビールを飲み、会話も弾みながらあっという間に開演時間となり、急いでなんばグランド花月へ。

この日は立ち見もあるほどで、私たちは6列目中央というとても良い席で鑑賞出来、漫才と新喜劇を楽しみました。あっという間の2時間半でした。

ゴルフコース報告

井原工業（株）松山支店 高橋 拓哉

9月18日(木)「箕面ゴルフ倶楽部コンペ」に参加させていただきました。当日は雷雨の予報でしたが、天候にも恵まれ、雄大な自然に囲まれたコースでプレーを楽

しむことができました。箕面ゴルフ倶楽部ならではの自然豊かな景観と戦略性の高いコース設計が魅力的であり、ホールごとの異なるコースに苦戦しながらも、参加者の皆様と交流を深めることができ、大変有意義な一日となりました。前半最終の9番ホールでは、打ち下ろし右ドッグレッグの短いミドルホールのグリーン方向が見えづらい景観で絶妙な位置にバンカーがあり、ティーショットの狙いどころが重要で、セカンドショット以降に繋げるのと方向性の調整が難しいホールでした。特に印象に残っている後半12番ホールでは、短いミドルホールでありつつ、ブラインドホールの全く先が見えないコースで距離感を掴むのが難しいホールでしたが、自分自身の中では上手く打つことはできました。

ゴルフコンペを通じて、普段なかなか接する機会のない方々とご一緒させていただき、会話を楽しみながらゴルフの楽しさを実感するプレーができ、交流を深めることができました。スコアの面ではまだまだ課題が多く、特にアプローチやパターの精度不足を痛感しましたが、それ以上に参加者の皆様と和やかな時間を共有でき、自身の技量不足の悔しさを次回の成長に繋げつつ、より良い成績を目指して精進したいと思います。最後になりましたが、事務局・関係者の皆様ありがとうございました。



▲優勝は井上竜治さん

3日目 大阪・関西万博へ

大会ツアー最終日は、大阪らしく今もっとも話題の「大阪・関西万博」を訪れました。会場は朝から多くの来場者で賑わい、各国パビリオンはいずれも長蛇の列。(添乗員さんによると通常より入場に並ぶ人は少なく、早く入場出来た…と。) 私たちも人の波に揉まれながら歩きましたが、その中で話題の大屋根リングを体験することができました。世界最大級といわれる木造建築のスケールは圧巻でした。天候が曇りがちだったこともあり、炎天



▲飯田グループパビリオン

行列で待つ忍耐と、潔くあきらめる判断にリベンジしてほしいと願いました。

一方で、私たちは事前に予約して見学できたのが「飯田グループ」のパビリオンでした。展示の目玉は、巨大なジオラマで表現された未来都市「ウエルネススマートシティ」です。エントランスを抜けると、長径24メートルの圧倒的なスケールのジオラマで、未来都市の姿を現

下にさらされることなく散策できたのも助かりました。

エピソードとしては、Kさんが「イタリア館」に、なんと4時間半並ばれたものの、帰りの時間が迫り惜しくも断念。最後は「せっかく並んだのに！」と笑い話となり、参加者一同の記憶に残る出来事となりました。



しました。大阪公立大学との共同研究技術が随所に盛り込まれ、身近な「家」や「街」を起点にしながら未来の生活を具体的に思い描くことができ、まさに未来社会の建築を体感できました。

◀ ミヤクミヤクの前で



▲万博にて集合写真

登録有形文化財 愛媛県教育会館について

文化財・まちづくり委員会 委員 和田 崇

愛媛県教育会館は松山市北持田、愛媛県中予地方局総合庁舎の南向かいに位置し、昭和12年（1937年）に建築されました。設計は愛媛県技師・浅香了輔、大工棟梁は高石岩五郎。木造3階建ての建物です。持田地区には教育会館のほかにも愛媛大学附属中学校講堂や松山地方気象台、八束家住宅など登録有形文化財が、いくつも残されています。



▲ 外観1（北側正面）

外観は一見コンクリート造を思わせる重厚さを備え、壁面には凹凸があり垂直性が強調されています。洋風のデザインを基調としていますが、玄関上の屋根部分には和風装飾が施されており、このような意匠は昭和前期の建物に多く見られたようです。

何年も前から存在は知っていたものの、中に入る機会はなく不思議な存在感の建物だなあ、という印象でした。2年前に足を踏み入れるまでは――



▲ 外観2（北西から）

2026年の冬、私たちは堀部安嗣講演会のスタッフとしてJIAの方々と一緒に会場探しに奔走していました。

中尾忍さんの推薦で教育会館が候補のひとつとなり、会場の下見という名目で思いがけず会館の中に立ち入る幸運に恵まれました。



▲ 2階講堂

趣のある薄暗い廊下を抜け、無垢材をふんだんに使った広い階段に差し掛かったころには、この建物のただならぬ雰囲気を感じとることが出来ます。2階の講堂に通されると晴れた年の瀬の午後、傾きかけた日の光が木造建築とは思えない、ゆったりとした空間のハイサイドライトから差し込んでいます。その光景を一目見て、講演会の会場として教育会館を使わせてもらいたい！という思いが沸々と湧き上がったことを覚えています。

最終的にはバリアフリー対応などのことを考慮し、他の会場で講演会を開催することになりましたが、建物は大切に使われてこそ長く存在することができるのではないかと思います。



▲ 玄関上の和風装飾



▲ 2階講堂ハイサイドライト

地域にある文化財のさまざまな歴史や魅力を学び（教育会館は2015年には耐震補強工事も完了しているそうです）、機会があれば建物の活用についてもぜひ協力したい、と考えています。

教育・事業委員会主催「BIMで何ができる？勉強会」に参加して

教育・事業委員会 副委員長 相原 昌彦

日時：2025年8月22日(金曜日)15:30～17:30
場所：愛媛県建築士会館1階会議室（参加者：15名）
講師：ティエムソフト株式会社 代表取締役 玉澤和善氏

建設業界でも若者離れや高齢化に伴い労働人口が減少しています。更に2次元CADによるデータの分断や、手戻りが多発しプロジェクトの効率性を下げています。こうした背景から「如何にしてプロジェクトを効率的に完遂するか？」が急務となっています。これを解決する切札として、BIMデータを活用しプロジェクト全体の情報を一元管理することで、設計・施工・運用管理の各工程で生産性・品質・安全性を向上させる有効ツールとして、BIMは世界的に普及しつつあります。

今回は、BIMデータを活用し型枠展開図作成ソフト等、「現場の声を第一に」ソフトウェアを開発してる、ティエムソフト株式会社の玉澤様をお招きして、BIMデータの活用事例についてご講演いただきました。



▲ 講習風景

国内のBIMソフトの導入内訳です。設計事務所は、ArchiCAD > Revit > Vectorworks > GLOOB
施工会社では、

Revit > ArchiCAD > Vectorworks > GLOOB
「Revit」は意匠・構造・設備設計区分が統合され利便性が向上し、大手の施工会社で採用が増えています。

BIMソフトの導入を加速するには、企業やプロジェクト関係者が選定・運用・活用するまでの知識を共有し、そのメリットを十分に理解することが重要です。

プロジェクトでBIMデータを共有すれば、設計変更がリアルタイムで反映されるため、修正漏れや計算ミス在未然に防ぎ、作業効率が格段に向上します。しかし、こうしたメリットがあるにも関わらず、BIM導入済みの企業は6割程度ありますが、その中で実際に活用しているのは3割に過ぎず、メリットを十分に活かしている企業は15%に過ぎません。導入しない理由としては、

経営者：導入コストやアップデートが高額
設計者：運用する知識を習得する時間がない
施工者：関連会社の古い体質によるデータ共有が困難
これらがBIM導入が進まない理由となっています。



▲ 講師の玉澤氏

ティエムソフト社製のソフトウェアは「ArchiCAD」「Revit」「GLOOB」に対応しており、RC造5階建、延床面積10,000㎡の建物を、約20秒でBIMデータからコンバートし、型枠10,000㎡の積算も約20秒で完了するため、大手ゼネコン15社で採用されています。

従来の2次元CADでの作図は、作図時間やパネルの割付ミス等、人為的なミスが頻発していましたが、弊社の型枠展開図作成支援ソフト「Tenkai_Pro」は、BIMデータをコンバートして、数十秒で正確なパネル割付図を作成します。作図時間もなく、人為的なミスも全く発生しません。また作成データを工場のNC加工機に送り、切断・加工やセパレーター穴あけ等の加工も全て自動で行います。BIMデータを活用してパネルを枚単位で把握し、加工ロスもなく作業効率を40%も向上させました。また、パネルに「栈木」を使わない、新しい工法「オブジェクトパネル工法」も開発しています。

従来の工法	オブジェクトパネル工法
栈木取付解体手間が必要	栈木が不要
栈木パネルの厚さ:60mm	パネルの厚さ:12mm
釘打ち建込み釘抜き解体	専用パーツで取付取外し
パネルの転用回数:2回	パネルの転用回数:20回

- ・栈木取付釘打ち・取外し手間がない
- ・パネル厚さが1/5に減り運搬量が大幅に削減
- ・釘打ちなしでパネル転用率が10倍長持ち
- ・専用パーツで取付でき現場作業も大幅に短縮

今回の玉澤様の講演をお聞きしてBIMデータを活用し設計・施工・運用管理の効率化と、生産性・品質・安全性を向上させるメリットを実感しました。

令和7年一級建築士試験「設計製図の試験」対策『庁舎』実例見学会報告

青年委員会 委員長 武智 良太

開催日：令和7年8月30日(土)

開催場所：四国中央市役所（四国中央市三島）

参加者：設計製図試験受験生18名

青年委員及び四国中央支部スタッフ10名

協力：四国中央市 建築住宅課

8月30日に、令和7年一級建築士試験「設計製図の試験」対策実例見学会が開催されました。今年は四国中央支部と青年委員会の共同開催で、講師は四国中央支部の高橋 智洋氏が務めました。

今年の試験課題は「庁舎」。

四国中央市役所建築住宅課 鈴木様のご協力をいただき、四国中央市役所を見学させていただく運びとなりました。

見学施設

〔四国中央市役所庁舎棟 竣工2019年〕

延床面積 10,358.13㎡

鉄骨造・免震構造 地上6階

〔市民交流棟 竣工2019年〕

延床面積 1,271.36㎡

鉄骨造（一部RC）耐震構造 地上2階・地下1階

〔防災センター 竣工2015年〕

延床面積 6,908.74㎡

本館 RC造・基礎免震構造 地上5階

主訓練塔 RC造 地上5階

副訓練塔 RC造 地上3階



▲四国中央市役所外観

四国中央市のご厚意で、議場・屋上設備スペース・免震ピット内・防災倉庫等といった普段なかなか見ることのできない場所を見学させていただくことが出来ました。受験生の皆様のみならず、スタッフ一同も大変勉強になったのではないのでしょうか。



▲執務空間見学



▲屋上設備スペース見学

やはり実際の建築物を生で見るということは実務にも試験にも活きるものと思います。

近年、建築士設計製図試験は難化傾向にあると聞きますが、今回の参加者の皆様が、見学会で得たことを武器のひとつとして試験合格を掴み取ることを願っております。

最後に、今回の見学会について多大なご協力を賜りました四国中央市建築住宅課 鈴木様、また、共同開催を快く承諾して下さった講師の高橋氏並びに四国中央支部の皆様、改めて御礼申し上げます。



▲資料による解説

第34回全国女性建築士連絡協議会 (やまがた)

「山形から発信 みらいへつなぐ木への挑戦」 ～雪・山・川が織りなす食文化とともに～

委員会報告

4

開催日：令和7年7月19日(土)～21日(月・祝)

会 場：山形市 山形テルサ

参加者：現地3名、zoom参加3名

女性委員会 委員長 永井 由起

7月19日から山形市で開催された全国女性建築士連絡協議会に参加しました。初日の基調講演は「木造建築の可能性」として1つ目はリフォーム番組で有名な瀬野和広先生による「ウッドチェンジからウッドリターン」の理由。木の国の設計者でありながら木を知らなかったご自身の経験と、そこから学んで木をより良く使う方法を模索しながらの設計について。住宅、非住宅に関係なく架構的工夫を重ね、流通材を駆使した木構造で建築することが、木に対して環境に対して設計者としての責任と役割だと話されました。2つ目は東大農学部で木質材料を学んだ後、設計事務所を立ち上げて東京と山形で二拠点生活をしながら地域活性化にも取り組む鍋野友哉先生による「山と未来を繋ぐ架け橋」。OECD加盟国の中でフィンランドに次いで2番目の森林率を誇る日本でありながら、戦後に植林した木も林業従事者の減少で手入れが進まず山は荒れ、その材を活かしきれていないことを「素材の孤立」と評し、その孤立に対して建築としてどのように応えるか。厚さ36mmの薄物CLTを活用してヴォールト屋根とした自邸、エンジニアリングウッドの可能性。地球単位で地域と建築の繋がりを考えることなどを話されました。

被災地報告では令和6年7月の山形県北部豪雨災害、昨年報告があった同年1月の能登半島地震とその後の9月に起こった能登半島豪雨について、福島県の「建築士のつどい」の報告、阪神・淡路大震災から30年経っての報告がありました。山形からの報告では「被害状況の写真が残されておらず、支援申請に時間がかかった」という問題提起がありました。水害では水が引くとすぐに泥出しやごみ出しが始まり、現状を記録する前に片付けが進んでしまいます。辛くとも、片付ける前とにかく記録を残す重要性を知ってもらう必要を感じました。毎回の被災地報告で思うのは、迅速で組織的な支援体制を「平時に」構築しておくことです。官民の連携、組織として動ける仕組みが必要だと思いました。

懇親会では地元でもなかなか手に入らないという地酒(十四代、朝日鷹、くどき上手ほか)に加え、山形風の芋煮(山形は醤油・牛肉。庄内地方は味噌・豚肉とのこと)

を頂き、会長の古谷誠章先生が仰る「その土地の『風土』を知るにはその土地の『フード』を食すること」を満喫しました。

2日目の分科会ではB分科会の「古民家復権作戦」に参加しました。白川郷の改修事例について、様々な裏話が伺えて良かったです。



▲ 現地参加者

午後からはエクスカージョンで銀山温泉宿泊コースに。宿泊した「本館古勢起屋」は基調講演の瀬野先生の改修で、当日は解説もしていただきつつ、お部屋もお食事も楽しみました。翌朝は銀坑洞も散策し、真夏とは思えな



▲ 銀山温泉

い涼しさを堪能しました。

今回の山形行きは山形新幹線の車両故障により、東京から山形には直通できず、乗り換えが必要になりました。思いがけず仙台経由としたことで、東京で働いていた頃

に関わった建物や、せんだいメディアテークを見に行くことができ、とても良い経験をさせていただきました。

後日、講演会や分科会は連合会サイトで公開される予定です。また、来年の全建女は7/19(日)～20(月・祝)に東京で開催されます。是非ご参加ください。

西予支部 下元 美恵

B分科会に参加しました。

テーマは「古民家復権作戦」で、高断熱・高気密構造を取り入れた「寒くない古民家修復」についての内容でした。特に、白川郷の茅葺屋根建物を改修した【好々庵】の事例を詳しく紹介していただきました。

印象的だったのは、断熱の工夫として合掌組の2層目に「断熱・気密ボックス」を設置することで、茅葺の葺き替えと室内断熱層の両立を実現するという考え方です。これは、日頃の古民家改修にも応用できる有用な発想だと感じました。また、気密空間の中で囲炉裏を設置するという難題にも、巧みな設計で対応していた点には驚かされました。



◀ 頂いた資料

また、分科会会場では、北海道で活動されている『火の見櫓を守る会』の資料をいただきました。

火の見櫓といえば、子どもの頃にどこかで見かけた記憶のある、どこか懐かしい工作物です。改めて資料を拝見すると、その造形の面白さや構造の工夫に思わず見入ってしまいました。単なる見張り台ではなく、防災や地域の暮らしを長く見守ってきた象徴的な存在であることを



▲ 古勢起屋本館

知り、古民家や町並みを考える上でも、こうした身近な文化財の魅力にもっと目を向けていきたいと感じました。

次の日は、前日に基調講演でお話いただいた瀬野先生のご案内で、銀山温泉の【古勢起屋本館】を見学しました。

自分が宿泊するお部屋以外にも、それぞれの客室をのぞかせていただき、趣の異なるさまざまなお部屋を見ることができ、とても貴重な体験でした。

そのまま宿泊もさせていただきましたが、なんと当日はお客様が全員女性建築士！ 2か所ある浴室はどちらも女性専用となっており、まるで貸切のような贅沢なひとときを過ごせました。

松山支部 八束 智恵美

7月19・20日山形県で開催された、第34回全国女性建築士連絡協議会に参加してきました。今回は、ちょうど夏休みに入った3連休だったので、息子の学校や弁当の心配をしなくてよい日程であったこと、人生で一度は行ってみたい『銀山温泉』まで足をのばせるチャンスであったことから、何カ月も前から往復の飛行機と会場近接のホテルを予約してこの日を待ち構えました。しかしながら、直前におきた山形新幹線の原因不明の故障のおかげで仙台経由しか予約がとれず、ローカル線を使い継いでの山形入りになりました。



▲ ローカル線の手窓から見つけた『面白山高原駅』

山形へ降り立って、まず、暑い！ 暑すぎる！！ それもそのはず、その日は全国一山形が暑い37.5℃。涼しい朝の時間帯に松山を発ってクーラーの効いた電車の中にいた体には、東北だということを実感し難い暑さでした。が、きれいなビジネスホテルが立ち並び駅前から、きれいな

県民ホールを抜けて、これまたきれいな会場まで歩いてあつという間。開会15分前に山形駅にたどり着いても十分間に合う利便性の良さに感激しました。松山ならどうだろうか…は、さておき。

1日目は「木造建築の可能性」について、山形に拠点を置き、東京でもご活躍の瀬野和弘氏と鍋野友哉氏の基調講演に引き続いてのフリートークセッションでした。2日目は、分科会で「介護保険における住宅改修の適正化に関する業務」について、他県での行政と建築士のかかわり方等の実例を聞くことが出来ました。日頃は販売業であり建築設計にかかわることのない日常を送っていますが、この2日間は大変興味深い時間を過ごすことが出来ました。その土地の『風土』を知るには、その土地ならではの『フード（foot・食べ物）』を頂いて…という開会挨拶の言葉に従って、山形のおいしい日本酒・玉こんにゃく・芋煮・山形牛・冷たい肉そば・おいしいお米等々を頂き、脳にも心にも胃袋にも満足な2日間でした。また機会があれば参加したいと思いながら、暑いそして熱い銀山温泉も楽しみました。

オンラインに参加して

松山支部 一之瀬 佳緒理

全国女性建築士連絡協議会 やまがた大会にオンラインにて参加させていただきました。

「山形県北部豪雨」「能登半島地震・能登半島豪雨」「阪神淡路大震災」についての被災地報告・活動報告では、会場のスクリーンに映し出された写真で被害の大きさを実感し、今自分にできることは何だろうと改めて自問自答する機会となりました。明日かもしれない南海トラフ地

震。平時からどう備え、繋がりを築いておくことが大切ということをお教えました。

分科会では「介護保険における住宅改修の適正化に関する業務」を選択したのですが、私自身、介護保険における住宅改修の経験はないのですが、会場の参加者は現場の方が多く、問題点や現状の意見交換が活発になされていました。意見交換をすることで身近な問題が解決し、さらに先の問題解決に向けてステップアップできるのだと感じ、繋がることの重要性をこの大会を通して再認識することができました。

宇和島支部 田中 陽子

今回、私は初日にオンラインで参加しました。その中で「木造建築の可能性」瀬野和弘さんの基調講演がとても印象的でした。

「設計者は木のことを知らない。」と冒頭毒を吐く言葉から始まり、そうかと思えば自身が40年前に初めて木造建築を設計した自邸が「失敗作だった」と自虐的な言葉を発したり、そこから始まったさまざまな木材への探求についての話は、もっと聞きたいと思う内容ばかりでした。

「大阪万博の大屋根リングは解体後はどのように使いまわされるのか？」っと笑いを誘う部分もあり（ご本人はいたって真剣）、ユーモアを交えたトークを画面越しではありますが拝聴し、充実した学びの場となりました。

出来れば山形に行って銀山温泉に泊まりたかった（涙）。残念ながら業務のスケジュールでオンライン参加となりましたが、現地参加された方の報告を楽しみにしたいと思います。



▲能登被災地報告



▲石貫委員長 大会アピール

住宅なんでも相談会及び空き家・ 空き地問題無料相談会

四国中央支部 支部長 岸 良一

開催日：令和7年7月6日（日）

実施場所：四国中央市川之江ふれあい交流センター

相談者：空き家・空き地問題相談会 7組
住宅なんでも相談会 1組

スタッフ：建築士会四国中央支部、四国中央宅建協会、
行政書士会・土地家屋調査士会・司法書士
会の各四国中央支部、市役所建築住宅課

四国中央市では、市と四国中央宅建協会、建築士会・行政書士会・土地家屋調査士会・司法書士の各四国中央支部が令和4年2月に連携協定を締結しました。この協定は、連携団体が連携協力して、空き家・空き地に関する施策を推進する事で、地域社会の持続的な発展を実現する事を目的としています。この目的を達成するために空き家・空き地対策連携協力推進会議を設立しました。そして、これまで8回に渡り空き家・空き地問題無料相談会を実施してきました。相談会は事前申し込みを行い実施していますが、いつも予定の組数を超える申し込みがあり、問題を抱えている人がたくさんいることがわかります。今回は建築士会の住宅なんでも相談会と同時開催ということで、第9回目の相談会となりました。

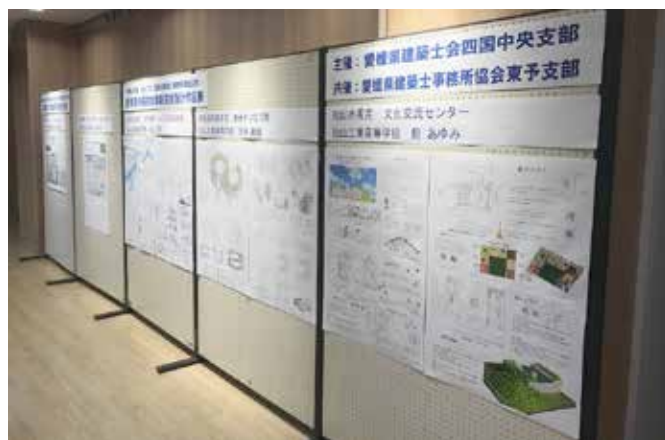
住宅なんでも相談会の方は、事前申し込み無しの当日受付で行いました。大勢の支部メンバーで待機していましたが、相談は残念ながら1組のみでした。相談内容は耐震診断を行い安全だと判定されたが不安なので補強したいという内容で、愛媛県から借りた耐震模型も使いながら補強方法について説明しました。その後、補強の目標設定やリフォームする範囲を決めて計画を作り見積を進めていく必要があることを説明しました。



▲ 愛媛県建築住宅課所有の耐震模型を使って説明中

同時に開催された空き家・空き地問題無料相談会については7組の相談がありました。接道や建て替えの可否等の建築に関する内容の場合は建築士が担当することになります。今回の相談は空き家・空き地の相続及び売却や管理についての内容がほとんどで、手続きをどのように進めていったらいいかわからないといった相談が多くありました。こちらの相談会は、市役所建築住宅課への事前申し込み時に相談内容をお聞きし、内容に合わせて専門分野のメンバーが当日対応するシステムとなっています。空き家・空き地問題には多様な要素が絡むため、予定していない分野の相談内容が生じても待機している別の分野の専門家を呼んでアドバイスすることができるので、問題が一度に解決する事もあります。

今後も年間3回ぐらいのペースで相談会を開催していく予定になっていますので、多くの市民の皆様に利用してほしいと思います。



▲ 建築作品展（共催：愛媛県建築士事務所協会）

相談会を開催するのに合わせて、高校生の建築甲子園（日本建築士会連合会）及び愛媛県内高校生建築競技設計（愛媛県建築士事務所協会）の上位作品展を7月1日から7月22日迄開催しました。

これから将来の職業を考え始める中学生、高校生に、建築士という職業について興味を持ってもらう為に昨年度から行っていますが、今回はより高いレベルの作品も見てもらいたいと考え、日本建築士連合会 建築作品賞及び、日事連建築賞の上位作品も展示しました。この後、市内2か所で巡回展示を行っていく計画です。一人でも多くの人の目に留まり、建築士を目指す人が増えればいいなと思います。

土壁のおはなし会& 野菜蔵づくりワークショップ

今治支部青年委員会 委員長 今井 このみ

開催日：令和7年7月27日(日)
会 場：しまなみアースランド 学習棟工房
対 象：今治市内の小学生と保護者
参加者：28名

今治支部青年委員会では、昔ながらの家づくりの魅力を発信するイベントの第二弾として、土壁のおはなし会&野菜蔵づくりワークショップを開催しました。今治市内の小学生と保護者を対象に参加者を募集し、おはなし会の講師は野の草設計室の橋詰飛香氏（設計士）と、越智左官の越智新次氏（左官職人）にお願いしました。両氏による土壁のスライドを見ながらのお話の後、三重県の左官職人の方が開発された野菜蔵キット（蒼築舎）を使ってワークショップをしました。



▲しまなみアースランド学習棟



▲おはなし会の様子

子どもたちに暮らしの文化を伝える

私たちがこうしたイベントを始めたのは、伝統的な家づくりの再興を願ってのことです。ただその手前の段階として、現代の子どもたちに日本の昔ながらの暮らしの文化を知ってもらいたいという思いもあります。楽しい一日を過ごすだけではなく「自分たちのルーツになる人々が築いてきた暮らしの文化は、本当に素晴らしいんだよ!」と伝える良い機会にもなればと思っています。

体験を通して魅力を伝える

土壁の土でつくる野菜蔵づくりでは、子どもたちに竹に藁を巻き付けること、土と水と藁を手で混ぜること、その土を木箱に塗り付けていく作業をしてもらいました。また、左官職人の越智氏のご厚意により、表面を色付きの漆喰で仕上げる「漆喰泥団子づくり」も加わり、参加者・スタッフ共にとても楽しく有意義なイベントになりました。



▲竹に藁縄を巻きつける



▲土と藁スサと水をまぜる



▲土を練り付ける



▲漆喰泥団子づくり

伝えたい土壁の魅力

「土壁の家は気持ちが良い!」「土壁の家に住み始めてから、花粉症が良くなった!」「夜によく眠れるようになった!」…土壁の家に住む方からこのような声を聞くのは、本当によくあることです。土には調湿効果と空気の浄化作用があるので、部屋の壁全体が土という空間ではその効果が大きく発揮され、住む人が体感できるレベルまでになるようです。

また土壁の調湿効果は、構造材である木材を湿気から守り、耐久性を保つことにもプラスに働きます。そして土壁は劣化に強く、こうした効果は電気やガス等のエネルギーを使うことなく半永久的に持続します。これらのことを総合的に考えると、人にも建物にも環境にも、あらゆる面で豊かさをもたらししてくれる素晴らしい素材と言って良いのではないのでしょうか。



▲野菜蔵の完成品と共に記念撮影

魅力を知り、土壁を選ぶ時代へ

参加者の方からは「楽しかった!」「良い体験ができた!」「また機会があれば声をかけて欲しい!」との声をいただき、講演をしていただいた両氏にもとても喜んでいただけました。これからも、こうしたイベントを通して昔ながらの家づくりの魅力を発信していきたいと思っています。

建築士の日 「模型家づくり体験教室」

松山支部青年女性委員会 委員長 辻川 晃太郎

開催日：令和7年8月3日(日)
開催場所：浮穴公民館
対象：地域の小学生と保護者
参加者：小学生21名



▲ 完成した模型と全員で記念撮影

令和7年8月3日に「模型家づくり体験教室」を開催いたしました。

本企画は地域の子どもたちに、ものづくりの楽しさや建築への関心を持ってもらうことを目的とし、有志の建築士会会員と浮穴公民館のご協力のもと開催することができました。



▲ 保護者のお力も借りながら模型の家を作ります ▲

当日は小学生21名が集まり、保護者の方々も見守る中、終始にぎやかで活気ある雰囲気の中で進行することができました。今回の教室では、スチレンボードをあらかじめ家の形に切り出したパーツを用意し、子どもたちがスチレンのりを使って、ひとつひとつ組み立てていきました。壁や屋根を固定しながら少しずつ家の形ができあがっていく過程は、子どもたちが普段触れることのない建築のプロセスそのものであり、大きな学びの機会となったように思います。



▲ 外構はお子さんの好みで作り上げていきます ▲



▲ 完成した模型を並べれば小さな町のように

今回の取り組みは、次世代育成の観点からも大事であると考えています。身内が建築関係の仕事をしている、新しい家を建てたなど、そういった立場や経験がなければ、子どもたちにとっては建築とはまだまだ遠い存在になりがちであるように思います。こうした体験を通じて「建築って面白い」「自分もやってみたい」と思ってもらえるきっかけを提供することが、将来の担い手を育てる第一歩になるのではないのでしょうか。

この「模型家づくり体験教室」は2017年から続いている人気の事業になります。また、来年も開催することで、未来の建築士を育てて行きたいと思っています。



▲ 夜な夜な黙々と材料をカットする様子 ▲

最後に、開催に運営を支えてくださった建築士会会員の皆さまに心より感謝申し上げます。特に、仕事終わりに夜遅くまで、模型部材づくりに協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。僕は、学生時代から模型作りが苦手で、この部材づくりですら心が折れそうになりましたが、皆様のお陰で無事開催することができ、成功を収めることができました。

今後も建築士会として魅力ある活動を継続していきたいと考えております。

建築士の日の行事 「臥龍山荘を建築士と伴に見直そう」

大洲支部 支部長 仲尾 和彦

開催日：令和7年7月28日(月)

開催場所：臥龍山荘

参加者：大洲高校生徒8名+先生1名+大洲支部6名

大洲支部の「建築士の日」の行事として、「臥龍山荘を建築士と伴に見直そう」と題し、県立大洲高等学校の生徒8名を臥龍山荘へ案内し、建築士としての視点から建物の説明を行いました。

建築の魅力を知ってもらう事と、建築士としての仕事を知ってもらう事を目的として開催しました。

今年で2年目の企画ですが、昨年は大洲城と臥龍山荘の2ヶ所とし、移動に時間がかかってしまったため、今年は臥龍山荘1ヶ所のみとし、じっくりと説明する時間を取りました。



▲ 臥龍山荘前での集合写真

説明は、臥龍山荘の修繕工事にも携わっておられる、菅野建設㈱の菅野隆次建築士に行って頂きました。



▲ 説明員の菅野建築士



▲ 臥龍院での説明

“建築士的な説明”をどう行うかが一番の肝でしたが、菅野建築士により、実体験を踏まえた建築的な視点から説明を行って頂きました。

観光客向けの一般的な説明の後、実際に行った修繕工事における材料・工法などの説明に加え、修繕する上で拘った事や、文化財を修繕することの難しさなどの話がありました。私も初めて聞く話も多く、参加したスタッフ側も勉強になったと思います。

菅野建築士の想いとしては「臥龍山荘の美的センスを感じ取って欲しい」との趣旨だったと思います。



▲ 不老庵での説明

説明を行って頂いた菅野さんを始め、大洲支部スタッフの助けにより昨年よりもスムーズに行事を終える事ができました。

また、準備段階から大洲高校の先生には全面的にご協力頂き、参加生徒の募集や引率などを行って頂きました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

後日、参加した生徒さんから感想文を頂きましたが、どの生徒さんも説明を良く聞いておられた事が伺え、とても感銘を受けました。

無料建築相談「建築士の日」 街頭アピール団扇配り、建築クイズ、 熊本・能登被災地写真展

八幡浜支部 安藤 嘉晃

開催日：令和7年7月12日(土)
場所：八幡浜市新町アーケード内
対象者：土曜夜市一般通行人
スタッフ：7人

八幡浜支部は、「建築士の日」を街頭にてアピールするため、ロゴ入りの団扇配布、建築クイズ、アーテックブロック、熊本被災地写真展、建築無料相談会を商店街の土曜夜市に併せて開催しました。



アーテックブロックで
子供たちが遊んでいる様子▶

恒例の建築クイズも年々バージョンアップして、大人も悩むようなクイズを作成し、子供も大人も楽しんでいただきました。また、アーテックブロックもたくさんの子供たちが夢中になって遊んでくれていました。

当日は猛暑と熱気でうだる様な熱さで疲れ果てていましたが、終わった後の慰労会でのビールは格別で、またこの味わいを味わいたく、来年も参加したいと思っています。



▲ 毎年開催建築無料相談会

設計業務等のリスクに備えた建築士会会員のための補償制度です。



建築基準法・建築物省エネ法
(4号特例縮小) の改正にも対応

6,500社超の建築事務所が加入する

建築士賠償責任保険
けんぱい

経営安定化のために、万が一の賠償請求への備えはできていますか？

特長

- 建築士のミスによる事故を総合的にカバー
- イメージ相違等で発注者から受ける訴訟費用も補償対象
- 情報漏洩補償や労災補償などの各種オプションもご用意

<https://kenchikushikai.aic-agt.co.jp>

あなたの原稿をお待ちしています。

公益社団法人として、異業種や全ての皆様から建築士会の枠を超えて原稿を広く募集し、広く購買して頂くようにしています。是非、寄稿して頂きますようお願い致します。本年度は年6回発行となります。
(尚、営業的色彩の濃いものにつきましては、掲載されない場合もありますので、ご了承ください。)

「いしづち」の次号の原稿締切日

令和8年 1月号 (168号) 令和7年11月27日(木)

※校正印刷の関係で締切延長の最終期限は一週間後の木曜日とします。

※1ページ写真込みで2150文字(25文字×43行×横2段)のWORD様式を事務局で用意していますのでご活用ください。

写真は1ページ当たり3枚程度まで題名を付けて添付してください。

また宜しければ投稿者の写真(免許写真程度の顔写真)を添付してください。

会員の皆様のご参加をお待ちしております。また記事等についてのご意見・ご感想もお寄せください。

(尚、投稿された原稿につきましては、要旨を変えない程度の若干の訂正等を加えることがあるかもしれませんので予めご了承ください。)

この誌面を通じて、会員の方々、そして一般の方々にまで、建築についての対話等の輪が広がればと願っています。
情報・広報委員会

読者の声欄

「いしづち」に関するご意見・ご提案などをお寄せください。お待ちしております。

「いしづち」編集委員会(士会事務局内) 宛 FAX 089-948-0061

編集後記

7月27日(日)に副委員長の渡邊さんから誘われ、安藤忠雄さんが設計、建築し、松山市に寄贈した、子ども向け図書館「こども本の森 松山」が開館するのに先立ちオープニングセレモニーが開かれ、「こども本の森 松山」オープン記念講演を拝聴いたしました。

安藤さんのお話では、「松山から世界へ向けて、難しいことでもやり遂げる子どもたちがここから出てほしい」と、本気で思っており、「そのために図書館を建設したのだ」と生き生きとした笑顔で語っていました。そして、「大阪にある司馬遼太郎記念館に行かれたことのない方は是非行って欲しい」とも話されていました。

素直な私は、早速行って参りましたので、そこで感じた事についてお話をさせていただきます。

司馬遼太郎記念館の敷地に入り、玄関に至るまで、素敵な外構で、隣接している司馬遼太郎氏のご自宅とお庭を望みながら進んで行くアプローチとなっていました。まさに周囲の自然環境と調和し、木々が美しく見えるように工夫されていました。建築スタイルは、コンクリート、ガラス、鉄を使用したモダニズム建築スタイルを持ち、シンプルでありながら洗練された印象を与えてくれました。

特に、入口の緩やかにカーブするガラスの回廊が、異世界へと導く様に感じました。そして内部空間では、3層吹き抜けの空間があり、11メートルを超える高さの書架に約2万冊の本が展示されていました。そこは自然光が差し込み、開放感のある空間が演出されていました。そのような空間の中で、自由に司馬遼太郎氏の本を読むことができ、贅沢な時間を楽しむことができます。私も時間が許される限り読書をして過ごしました。

現実世界から離れたくなった時には、皆さんも一度訪れてみたらどうでしょうか。

〈いしづち〉2025/11

令和7年11月発行

発行人 会長 尾藤淳一

発行所 公益社団法人 愛媛県建築士会

〒790-0002 松山市二番町四丁目1-5 愛媛県建築士会館2F

TEL(089)945-6100 FAX(089)948-0061 <http://www.ehime-shikai.com>

印刷所 アマノ印刷有限会社

情報・広報委員会・広報委員

委員長/大平 将司 副委員長/渡邊 道彦

編集委員/一之瀬 佳緒理 河合 優志 西岡 亜有美 西森 勉